

国際ロータリー第 2650 地区職業奉仕講演会 (2010 年 2 月 20 日・京都市)

「職業奉仕への私の思い、ロータリーは人づくり」

RI 元理事 渡辺 好政

1、はじめに：2010 年のロータリーはサン・ディエゴから：

ただいま、ご紹介にあずかりました岡山県倉敷市児島ロータリー・クラブ所属の渡辺好政と申します。富田謙三ガバナーには過分なご紹介をいただき、誠に有り難うございました。私は、今日、「職業奉仕への私の思い、ロータリーは人づくり」という演題を掲げさせていただきます。大きな演題でございますが、時間いっぱい私なりに務めさせていただきますと思います。特に、「育てよう、人。」という富田ガバナーの思いとともに、ジョン・ケニーRI 会長のテーマ「ロータリーの未来はあなたの手の中に」のことも踏まえて、皆さま方と一緒にしばらくの間、ロータリーを学んでみたいと考えております。

私は眼科医であります。眼科では、よく、「百聞は一見に如かず」と申します。耳鼻科の先生がいらしたらごめんなさいませ。耳鼻科の先生は、「百見は一聞に如かず」と申されます。テープは何回見てもわかりませんが、一度聞くとわかるということです。

先ほど本多保博地区職業奉仕委員長様のご紹介の中で、今日まで、佐藤千壽パスト・ガバナーが 1 回、深川純一パスト・ガバナーが 2 回講演され、今回、私が 4 回目でこれが最終のいわゆる「卒業講演会」とのことです。卒業式とは commencement exercises と申します。皆様ご案内のように、commencement には始まりという意味もございます。栄誉と伝統に輝く第 2650 地区の職業奉仕に対する始まりの時であっていただければ有り難いと思っております。

先ほど、富田ガバナーよりご紹介にありましたように、私は、先般、第 2580 地区、中央線から北の東京都全域と沖縄を含んでいます地区の年次大会にまいりました。富田ガバナーといろいろとお話できて本当によかったと思っております。RI 会長代理は、李東建直前 RI 会長でして、熱心にお話になられました。

私は、ロータリーは「機会」であり、また、ロータリーは「出会い」ではないかと思えます。機会とは opportunity です。その機会とは皆さま方の持っていらっしゃるすべての

機会をロータリーが提供いたしますけれども、それを生かすかどうか、あるいはそれをどのようにお使いになるかは、皆さま方の手の中にありますし、ロータリーは出会いを備えてくださいます。また、人生は出会いであり、出会いの連続ではないかと思えます。その中の出会いの中に、機会の中に職業を通じてのものもございましょうし、また、お互いが切磋琢磨して人づくりになるということがロータリーのロータリーたる所以ではないかと考えます。

「手続要覧」で職業奉仕に関する声明を見ますと、「職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かしていくことをロータリーが育成、支援する方法である。」とあります。この中で、キーワードは「奉仕の理想」でございます。後からも出てまいりますけれども、「奉仕の理想」というのはロータリー・ソングにもありますが、よく、シニア・リーダーの人たちが話題にします。

また、「奉仕の理想」をどのように取り扱うかについて、2010年4月にシカゴで開催されます規定審議会に当地区からも提案されております。

RI から出ております公式名簿 *official directory* の裏表紙のところに、この「奉仕の理想」についての記載がありました。また、後ほど触れさせていただきます「四つのテスト」のところでもまたお話を申し上げますけれども、”Ideal of Service”とは”Thoughtfulness of and helpfulness to others”であるとの解説であります。すなわち、「奉仕の理想」とは、「相手の方に思いをはせて、相手の方をお助けする」ということなのであります。また「奉仕の理想とかけてなんととく、その心は共存共栄である」とは、私の敬愛してやまない佐藤千壽パスト・ガバナーのお言葉であり、私もまったく同感であります。

暦年における国際ロータリーの始まりは、1月のサン・ディエゴからであります。と申しますのは、奉仕の理想を含めまして、私たちの職業奉仕に対するいろいろな考え方が語られ、新しいロータリー年度のいろいろな方針を出したり、あるいは新しいガバナー・エレクトの皆さま方と一緒に勉強したり、決定をするという国際協議会が毎年1月に行われるからであります。その国際協議会と並んで、RIの現会長、会長エレクト、副会長、現理事、元会長、管理委員長、管理委員長エレクト、現管理委員、事務総長、会長ノミニ、元理事、理事エレクト、地区ガバナー、元地区ガバナー、・・・という多くのRI指導者の皆様が集まる *Past Officers Reunion (POR)* が開催されます。以前は、国際協議会とともに、国際研究会が開かれておりましたが、いろいろな事情で中止になりましたので、そ

れに変わるものとして、PORが開かれるようになり、今年で7回目となりました。

私は、そのPORへの出席を兼ねて、本年もサン・ディエゴに参り、国際協議会に出席してまいりました。

その国際協議会では、毎年、会長エレクトによる感動的なテーマ講演を含めて、何回かの全体講演が行われます。職業奉仕は、その全体会議でも重要なテーマであります。

昨年の2009年RI国際協議会では、インド出身のラジェンドラ・サブ一元RI会長が「職業奉仕、忘れられた部門」の演題のもと、次のように話されております。「1910年、シカゴで開かれた最初のロータリーの大会で、職業奉仕の父として知られているアーサー・シェルドンは『事業とは人間奉仕の科学である』。また、『仲間に最もよく奉仕をする者が最も多く報いられる』と言いました。これは誠に至言であり、今現在もなお生き続けている名言であります。」

2008年RI国際協議会では、光栄なことに、私が「職業奉仕の重要性について」の総会講演をさせていただきました。私は、ロータリーを「一本の樹」にたとえまして、「ロータリーの樹・2008」という演題でもって、職業奉仕は、ロータリーの根幹であり、金看板であることを具体的にご紹介申し上げました。そして、この「ロータリーの樹・2008」は全世界の多くの方々からあたたかい反響をいただき、私は、外国はカナダをはじめ、日本国内の多くの地区からのご依頼を受けて、職業奉仕の講演をさせていただきました。

この古き千年の都・京都を中心にして、福井、滋賀、奈良の4県をテリトリーとされます当地区の中でも、こと職業奉仕につきましては、滋賀県近江商人の経営理念の中にある、「売り手よし、買い手よし、世間よし」という三方よしの理念は、私たちが忘れることのできない先達の知恵の結晶であります。

私のガバナー時代のRI研修リーダーは、当地区のパスト・ガバナーのお一人であり、今は亡き、小谷隆一元RI理事でございました。小谷先生は、私に、よく、「渡辺君」って電話をかけていただきました。今でも、小谷先生の懐かしいお声は、そのお姿とともに、私の脳裏に深く刻まれており、今にも、小谷先生の懐かしい声が聞こえるようでございます。お顔が見えないこと誠に残念でございます。その時に小谷先生は、いつも石田梅岩先生のお話をされます。小谷先生は、RIの職業奉仕や会員増強の委員を歴任されました。ある日、ある時、私は、光栄なことに、先生のお供をしてエバンストンに出向き、先生の思

いを通訳させていただいたこともございます。素晴らしいことに、こういった小谷先生のお姿が根底にあります当地区におかれましては、まさに職業奉仕そのものに徹しておられて、ますます発展される地区であるという実感を持っております。

先般、東京で開催されました第 2580 地区の地区大会におきまして、第 2580 地区の多田宏（ひろむ）ガバナーは職業奉仕について、次のように話されました。すなわち、「職業奉仕とは結局、ご自分の会社を、事業所を潰さないことであると考え」と。私はまったく同感であります。私は、職業奉仕には、ご自身の会社を、また、事業所を存続させることに始まり、そして、発展を考えるということが根底にあるのではないかと思います。もし、ご自身が経営していらっしゃる会社が倒産するようなことがあれば、その時には、ご自分も困りますし、またその会社に勤めてらっしゃる従業員の方も困ります。多くのことを考えてみますと、大変なことばかりではないかと思いますし、そのために私達はいろいろな努力を重ねていかなければならないと思います。

1-1) サン・ディエゴの3つの顔

2010年1月、Past Officers Reunion と RI 国際協議会が行われましたサン・ディエゴには、3つの顔があります。

第1の顔は、海軍の基地です。アメリカ太平洋艦隊の基地が設置されており、海兵隊航空基地もあります。サン・ディエゴ市は、横浜市と、また、佐世保市との間で、姉妹都市との縁組をしております。さらに、サン・ディエゴ市は、同じ米海軍の第7艦隊の母港となっている横須賀市との友好を深める意味合いから、3月17日を「横須賀の日」とされ、両市の交流を行っております。

第2の顔は、サン・ディエゴ市は、ハイテクの街なのです。ここには、情報通信関連の企業や、バイオ、製薬、医療機器の企業などが集結し始めています。人口は、120万人位の街ですけれども、素晴らしい多くの世界的に有名な研究所があります。もちろん、カリフォルニア大学サン・ディエゴ校、あるいはサン・ディエゴ州立大学などとの産学協同もその一翼を担っていて、こういった研究機関などで多くの外国人が研究しております。

第3の顔は、国境の街です。国境をはさんだメキシコ側のティファナへは、労働力の安

さとアメリカへの輸送性のよさを求め、多くの企業が工場を設立し、その駐在員の家族はサン・ディエゴ側に生活拠点を置いております。

1-2) The 7th Past Officers Reunion San Diego (VII POR / SUN)

第7回元 RI 役員が集い (Past Officers Reunion (POR)) では、先に述べましたように、RI の多くの指導者の皆さんが参加され、講演があり、交わりの時がもたれました。

私は、2011-12 年度 RI 会長指名委員として、第 1 ゾーン板橋敏雄元 RI 理事、第 2 ゾーン小沢一彦元 RI 理事とご一緒に委員を務めさせていただき、2011-12 年度 RI 会長候補としてインド出身のカリアン・バネルジーさんを全員一致で指名させていただきました。

POR の講演において、カリアン RI 会長ノミニーは、インドのポリオについて、現在、ポリオの感染は、インドの 2 つの州だけに狭められていることにふれ、問題は、子ども達へのワクチン接種が見落とされていることと、感染した可能性のある子どもたちが大人について移動していることなどとし、私の RI 会長年度の終わりまでには、何としても、ポリオ撲滅を成功させることの希望を述べられました。

また、カリアン RI 会長ノミニーは、「私たちは、会員の『質』を重んじなければいけない」と熱っぽく語られました。現在、インドの会員数は日本を抜いて、ロータリー国世界中の第 2 位になっております。しかし、会員の「質」にいろいろな意味の問題点がございませう。そういう中でカリアン RI 会長ノミニーが、会員の『質』を重要視しなければならないと言われる所以がここにあるわけがございませう。

ケニー RI 会長は、ポール・ハリスの「私たちは今日、ロータリーの明日の計画を立てなければならぬのです」という言葉を紹介し、「ロータリーは問題について何もできないが、ロータリアンはできるのです」と述べられました。

1-3) RI 長期計画委員会と職業奉仕、優先事項 2010-13

職業奉仕を論じます時に、2 つの問題がございませう。1 つは職業奉仕が現在、私たちロータリーでどういうふうな位置付けになっているか、そして、それは将来どうなるかということです。もう 1 つは、職業奉仕として考えられる私たちの毎日の生活において、ロータリアンとしてどのような生活をするか、事業にどのように取り組むか、そして、職業奉仕を通じてそれを分かち合い、まず内への職業奉仕、あるいは外への職業奉仕という考え

がありますけれども、いろんな活動を通じて、私達の地域社会にどのように貢献していくか、世界にどのように貢献するべきかという問題がございます。

RI 長期計画委員会委員には、第 2710 地区の南園義一元 RI 理事が 6 年間の委員として参加されております。ロータリーの友 2010 年 1 月号に 2010-13 年度新長期計画のことが出ておりますので、ぜひお読みいただきたいと思っております。

2007-10 年度長期計画の優先項目の第 5 番目に「職業奉仕の強調」という項目がございます。これは、私たちロータリーのロータリーたる所以ではないかと思っております。中核となる価値観の 4 番目に高潔性 (Integrity) がございます。そのことを踏まえて、職業奉仕を強調しなければならないという関係がございます。

RI 長期計画委員会は、2009 年 6 月 21 日から 8 月 18 日までに、いろいろな面から選ばれたロータリアンにアンケート調査を行いました。回答率 35%です。そして、奉仕活動の成果が計測しやすいプログラムであるかどうか。また、ロータリアンの参加を増すにはどうしたらよいか、さらに、長期的な見地に基づく計画はどのようにして促すことができるだろうかという観点から、2010-13 年度新長期計画を考えました。特に、これはロータリー財団の未来の夢委員会ともあわせて、そのことを考えてみました。

その時に、RI 長期計画委員会は、まず、国際ロータリーの「使命」として「私たちは、他者に奉仕し、高潔性を推進し、事業と専門職種及び地域社会のリーダー間の親睦を通じて、世界理解、親善、平和を推進する」ということを確認し、さらに、RI の「ビジョン」は、「私たちは、全世界社会における人々の生活の改善に貢献するため、活発で行動力のあるクラブからなり、人々から選ばれる奉仕組織である」としました。

2010 - 13 年度新長期計画の修正点が 3 つございます。

第 1 には、ロータリー財団 (以下、TRF) の 6 つの重点分野の範囲内において多大な成果をもたらす奉仕活動を強調することにより、RI と TRF の長期的な方向性を統一する。幸いなことに、ご当地第 2650 地区と私どもの第 2690 地区ともに第 3 ゾーンからパイロット地区に選ばれました。そして、アメリカの特にハーバード大学を中心とするボストンのパイロット地区と職業訓練のチーム (VTT) の交換ということが極めて具体的に進められております。喜ばしいことでもあります。このプロジェクトの成功を祈っております。

第 2 には、個々のクラブの重要性という基本、並びにクラブをサポートするための RI の積極的な取り組みを認識することにより、基本に立ち返り、もう一度ロータリーの活動

を見直して行きましょう。

第3には、世界社会での行動を主体にしたロータリーの奉仕活動の成果を紹介することによって、文章で裏付けされたニーズに取り組み、組織のイメージを明らかに打ち出す。

これは、やはり公共のイメージをもう少し上げて行きましょう。それに対して、ロータリアンがその先頭に立って模範を示さなければいけないところに職業奉仕の問題が加わってくるということでないかと考えます。

2010 - 13 年度新長期計画の優先項目は、①クラブのサポートと強化、②人道的奉仕の重点化増加、そして、③公共イメージと認知度の向上となっております。

①クラブのサポートと強化。クラブの刷新性と柔軟性を育てる、四大奉仕部門の調和の取れた活動を行う、多様性を増進する、会員の勧誘と維持を改善する、リーダーを育成する、ロータリーを進展させる、クラブと地区における長期計画の立案を奨励するなどが協調（強調）されております。

②人道的奉仕の重点化増加。ポリオを撲滅する、青少年と青年のプログラムやロータリー財団の6つの重点分野における奉仕の持続性を高める、他組織との協力関係を拡大する、地元や海外の地域社会で多大な成果をもたらすプロジェクトを創造していく。

③公共イメージと認知度の向上。イメージとブランドの認識を調和させる、行動を主体とした奉仕をPRする、中核となる価値観を推進する、職業奉仕の理想を強調する、クラブにおけるネットワークづくりの機会、並びにクラブ独自の主な活動について周知をはかるように奨励する。すなわち、私達は公共のイメージもっとPRをしましようという意味のことが2010年から2013年までの新長期計画になって、私たちのこれからのロータリー活動の中心となってくる、それを目指していこうということでございます。

1-4) ロータリー・クラブの長期計画：

クラブも長期計画を立てましょうということが行われるようになりました。ロータリー財団地域コーディネーター (RRFC) のお役目は、宮崎茂和パスト・ガバナーも経験されて、素晴らしいお働きをされておりますが、また、私どもの地区の橋本 譲パスト・ガバナーが、現在、RRFCを引きついでおります。

レイ・クリンギンスミス RI 会長エレクトは、その RRFC と同じような役目を果たすロータリー・コーディネーター・プログラムを進めていこうと考えております。

1-5) 国際協議会と職業奉仕

国際協議会の総会における職業奉仕の取り扱いについて、少し顧みてみたいと思います。

まず、2003年には菅生浩三元 RI 理事は、「今日における職業奉仕の重要性について」という非常に貴重な講演をなさいました。ビチャイ・ラタクル元 RI 会長は、2004年に「リーダーシップ—未来に焦点を当てる」、2005年「ロータリー100周年：四大奉仕部門」、2006年、「リーダーシップと意欲の源」、2007年「リーダーシップと倫理観」と熱心に話をされました。2008年には、光栄なことに私が「職業奉仕の重要性とロータリーの樹・2008」を紹介させていただきました。また「リーダーシップ」でビチャイ・ラタクルさんがそのことを述べました。2009年にサブ一元 RI 会長は「職業奉仕：忘れられた部門」ということで熱心にお話をされました。

2010年には、「職業奉仕の実践」ということで田中作次 R 財団管理委員、アントニオ・アラジェ RI 理事（ブラジル）、トム・ソーフィンソン RI 理事（USA）がそれぞれの国において職業奉仕をどのように実践するかということについてお話になりました。その国柄における職業奉仕の捉え方も大変興味があるところでした。

1-6) コミュニケーションとメラビアンの法則

少しく話題を転換いたしまして、コミュニケーションについてお話をいたします。コミュニケーションは、相手の心の中に切り込んでいくことであり、そのためにはどのようにしたらいいか、これがすべての始まりではないかと思います。

皆さま方、ご自分の思いを相手に伝えるためには、3つの手段があると考えられます。まず言葉と、音声と、非言語です。これを100%としますと、それぞれどれくらいの割合と考えられるでしょうか。

回答申し上げます。文字だけでは7%です。電話を考えると、文字と音声です。音声は38%、足しても45%、しかしながら面談をしますとこれが100%になるわけです。だから、何年か前に九州のある町で小学校6年生の女の子もさんが、「あなたおバカさんよね」とメールを出した時に殺人事件が起きました。考えてみますとメールほど怖いものはないのです。便利ですけど怖いものなのです。今日、お忙しい中にお集まりになり語り合うこと、地区大会やセミナーもそうです。私たちロータリアンにとって、いろいろな集まり、それぞれの経験を分かち合うことが大変大切であると考えます。

メラビアン¹⁾の法則でございます。言語が7%、音声38%、表情・ジェスチャー55%でございます。

では、私たちが相手に思いを伝える時には、どうしたらよいのでしょうか。私が思い出すのには、

①アイコンタクト、目と目の高さを一緒にする、

②声の高さを50%にする、

③相手との距離は50cm位にする、

④やや暗いところで語る

以上の4つのことがとても効果的にご自分の思いをお相手に伝えることができるのではないかと考えます。私は、あちこちでよく講演をしますと、「先生の話はよくわからなかったけれど、その4つのことだけはよくわかった。これを明日会社で話そうかと思う。」といわれることがあります。

2、「決議23-34」への熱き思い：

2-1)「決議23-34」への風当たり：

私達のロータリーの長い歴史の中で、2007年版の**手続要覧**84頁に「社会奉仕に関する1923年の声明」と記載されている文章は、1923年、セントルイスで行われたRI国際大会での決議第34号(23-34, 26-6, 36-15, 51-9, 66-49)(以下「決議23-34」)由来しており、私は、ロータリーの創始者ポール・ハリスの言葉¹⁾、元RI会長ハロルド・トーマスの言葉²⁾、日本ロータリーの多くの皆様のお考えと同じく、ロータリーの奉仕の哲学と精神の真髄を述べ、『超我の奉仕』と『最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』という2つのモットーを含む、唯一の貴重な文献として、2010年の現在においても、極めて深い意味を持つ決議であると理解しております。

この重要な「決議23-34」は、過去、幾度か修正されて現在に至っております。その間、撤廃の危機に遭遇したのは、菅野多利雄元RI理事によれば³⁾、「決議23-34」が**手続要覧**から削除されていた当時の1984年、続いて、1986年規定審議会に上程された『社会奉仕の新方針86-203』を伊藤恭一元RI理事が取り下げさせるとともに、決議23-34の撤廃を防いだこと。そして、玉村文夫元R財団管理委員⁴⁾によれば、『社会奉仕に関する声明(92-286)』との関連において、RI理事会が発議し、1992年規定審議会、「決議23-34」を削除して、新しい決議92-286と取り替えようとされたとき、先ず、日本からの千玄室元RI理事が反対され、それを引き継がれた蔵並定男元RI理事が孤軍奮闘された結果、

日本の立場が尊重されて、「決議 23-34」を削除されないで、92-286 号決議案が併置されることになったことなど、など、日本ロータリーの多くの先達により守られてまいりました「決議 23-34」の重みをいまさらながら感じております。

2-2) 「決議 23-34」と RI 理事会の対応：

私は、この際、この重要な「決議 23-34」が、ロータリー活動との関連において、どのような影響を持っていて、その影響の故に、RI 理事会はどのように対応をしてきたかを駆け足で回顧してみようと思います。

今、私が手に持っておりますこの本は『ポリオにうち克つ』⁵⁾ というハーバート・ピグマン RI 元事務総長が書かれた本です。これは日本語に訳されております。これをみますと「決議 23-34」とは、1910 年ごろから、当時のシカゴを中心に、ロータリーというのは職業倫理を守りながら私たちの高潔性を尊んで、いわゆる職業奉仕を熱心に考えて会社を運営していかなければならないというグループがあり、一方では、肢体不自由児に対する奉仕をしていこうというグループがございました。そういう意味の関係からしますと、いわゆる理論派と、あるいは職業奉仕派と社会派との問題がありました。ポール・ハリスが書きました「ロータリーの理想と友愛」、”This Rotarian Age”にもこの物語が書かれております。

この両派の論争は、あるいはロータリーの分裂にまで行くのではないかといわれるくらい熱心、かつ、真剣な討論が行われている中で、1923 年の国際大会の「決議 23-34」号において私たちの先輩はその危機を脱したわけでございます。そのこと自体は大変すばらしいことでございます。

そういう歴史的な意義を持っている「決議 23-34」が足かせになっていると考えが浮かんでまいりました。その第 1 は、私たちが、1985 年以来、CDC, WHO, UNICEF などとの緊密な協力の下に、25 年に亘って熱心に取り組んでおりますポリオ撲滅運動に関する問題が加わってくるからでございます。

「決議 23-34」は「手続要覧」から、あるいは「ロータリー章典」から、いろいろなかたちで消されるという時がございました。また、国際大会等で決議されたものを RI 理事会はどのようにしてそれを取り扱って、新しいものにするものにする必要があるかということも RI 理事会で熱心に討議をされました。1970 年代の終りから 1980 年代にかけても

討議されております。しかし、このことは私たちのこれから問題として、どう RI 理事会で取り扱うかというのが大変なことでございます。

しかし、職業奉仕は、RI においてロータリー・クラブとクラブ会員の両方の責務であるということは 1987 年の 10 月、11 月 RI 理事会において決められておりました、私たちはロータリー・クラブとしてどのように職業奉仕を扱っていくか、すなわち人的な育成を私たちは考えなければならないという新しいジャンルが出てまいりました。そこでまた職業奉仕の分野が広がってくるわけでございます。

RI の創立 100 周年を記念して出版された『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』という本がございます。それによりますと、RI には、3 つの危機がありました。それらは、第一次世界大戦、大恐慌、第二次世界大戦などでした。

スペインには、ヨーロッパで最初のロータリー・クラブがありました。スペインの内戦により、政府はロータリー活動を禁止し、ロータリー・クラブは無くなったという物語がございます。

そして、大恐慌の時代に、ロータリーの先輩は、職業奉仕に立ち返ることによって、ロータリーも地域も発展させました。ハーバート・テイラーが「四つのテスト」を編み出したのがちょうどこの時でございます。労使関係の競合他社との関係を向上するという観点からではなく、それと同じように一人一人が奉仕をするという観点からの職業奉仕をこの時こそしなければいけない。

ロータリーの先輩たちはこのことを考えて、その大恐慌を乗り切ったわけです。今失ってならないものはビジョン、「幻なき民は滅びる」と言いますが、私たちは他者への奉仕という理想の一時停止をしてはならない、これが一番恐いことなのです。

『ロータリー章典』に、「職業奉仕は、ロータリー・クラブとクラブ会員両方の責務である」(8—030—1) という新しい声明としましたけれども、出てくるまでの「決議 23—34」が辿りました経過は、いろいろなことで私たちの思いを越えている問題がございました。

「欧州復興開発銀行」初代総裁にして、経済学者・思想家・作家であり、ヨーロッパ最高の知性とされ、『サブプライム破綻』『世界金融危機』を予見的中させたジャック・アタリ氏を皆さんは、ご存知だと思います。そのアタリ氏が書かれた「21 世紀の歴史」の中で、彼は、「世界を襲う 5 つの波」から世界を救うためには、「他の人を助ける利他の精

神こそ世界を救う」と申しております。私達の考えているご自分の問題ですけども、他の人をどのように助けていくかということが真髓として出てくるのです。

ロータリー活動の真髓を現している「決議 23 - 34」の示す人生哲学において、利己的な欲求と義務、および、これに伴う他人のために奉仕したいという感情の間に存在する矛盾をどのように和らげるかが大きな問題となります。相手のことに思いを馳せ、相手を助けるという奉仕の理想をロータリアンとして私たちがどのように日常生活において具体化するかが職業奉仕の実践となりましょう。

やはり 1932 年、33 年の時にまずその恐慌を乗り切る時、これはいつの時代においてもそうですが、私たちの先輩がとった道は、ロータリー・クラブは、ロータリアンは職業奉仕の学びをその時代において再開する必要があると喝破したわけです。そうして、RI は崩壊を免れて今日に至ったわけであります。

ラジェンドラ・サブ一元 RI 会長は、2009 年国際協議会の講演において、「職業奉仕：忘れられた部門」と題して次のような講演をなさいました。「20 世紀初頭、ちょうどロータリーが誕生した時期、ビジネス界の大物達は、こぞって、商売は商売、一般など自分の知ったことではないと傲慢に言い放ったものです。富と名声を得るためなら手段を選ばぬ利己主義者たちが跋扈する世の中でした。そのような身勝手に閉ざされた商売のやり方がまかり通っていた時代、ロータリーは勇気と信念を持って倫理という繊細な問題を取り扱った」と。

この職業奉仕の感覚、これを本当に私たちは考えなければならない問題なのであります。

1910 年シカゴで開かれた最初の国際大会で、職業奉仕の父と言われるアーサー・シェルドンさんは、「事業とは人間奉仕の科学である」、また、「仲間に最もよく奉仕をする者が最も多く報いられる」と云いました。

私は、1993 - 94 年度ガバナーでして、その時に小谷隆一 RI 研修リーダーに懇々とこの「決議 23-32」の大切さを教えていただきました。「決議 23-34」は、なるほど、手続要覧においては、社会奉仕の項目に入っておりますが、「決議 23-34」の内容そのものは、そのオリジナルの標題からしても、2 つの基本的な標語も含み、ロータリーの奉仕活動全般についての基本理念を表現している唯一の文献であると理解しております。四大奉仕が

確立したのは、1927年ころといわれておりますので、「決議 23-34」は、当時のロータリーによる奉仕活動全体の規範となったわけであります。

その後、千 玄室大宗匠様はじめ、関係各位のあたたかいご支援によりまして、私は、はからずも、RI の理事職につかせていただきました。そして、RI 理事 2 年目の 2007-08 年度には、RI 理事会の執行委員会委員になっておりました。

2007 年 11 月理事会の執行委員会に出てまいりますと、X-5: Statement on Community Service という標題の議案が出ておりました。しかも、この議案が、first consent list に載っておりました。吃驚いたしました。

RI 理事会では first consent list と second consent list があります。First consent list とは、RI 理事会にいろいろな議案が提出される時、まず、RI 執行委員会での検討が行われます。そして、それぞれの議案のうち、執行委員会において、全体理事会 (full board) にかけて、管理運営委員会、プログラム委員会、財務委員会などに付託して審議しないでもよろしいと判断されたとき、first consent list にのせて、full board において、事務局担当者がその議案を読み上げて、RI 理事会決議にかえるという仕組みです。

私は、事務担当者をお願いした、X-5: Statement of Community Service の内容を提出してもらってよく見ますと、「決議 23-34」について、その全文を手続要覧、および、ロータリー章典から削除しようとする内容でしたので、直ぐに、first consent list から withdraw してもらいました。そして、同僚の小沢 RI 理事との 2 人 3 脚によって、RI 理事会内でのロビイングをはじめ、さらに、日本の元 RI 理事、元 R 財団管理委員、地区ガバナリー会議長の皆さんとの連絡、協議を始めました。

このような状態が出てきそうになった時に、私たち両名は、先に述べましたご関係の皆さま方にお電話を掛け、あるいは、お手紙を差し上げて教を乞いました。その時に千玄室元 RI 理事に大変なお世話になりました。改めまして、大宗匠様のご配慮に感謝の誠をお捧げいたします。

RI 理事会から帰国しましても、ご関係の皆さまに連絡して、いろいろとご教示をいただきました。そして、2008 年 1 月理事会において、an historic document という文言は残りましたが、何とか、手続要覧の次の版には新しいフォーマットとして記載されることとなり、ロータリー章典には、決議 23-34 を引けば、項目はヒットして、「決議 23-34」の

全文は手続要覧参照という内容が記載されることとなりました。

そして、2008年6月理事会にて、その「決議23-34」内容の確認を行い、小沢RI理事に引き継ぐこととなりました。

この物語の詳細は、『決議23-34』への熱き思い-2007-08年度RI理事会報告」と題して、小沢RI理事と連名で、ロータリーの友の2007年9月号25～29頁に書かせていただきましたので、ご照覧戴きたくお願い申し上げます（なお、ご参考までに、本日、皆さま方のお手元に関係部分のコピーを差し上げております）。

2-3) 「決議23-34」最新報告・小沢一彦RI理事の貢献

2008-09年度RI理事会には、日本ロータリーからは小沢RI理事がお一人となりましたが、幸いなことに、小沢RI理事は、RI理事会執行委員会にお入りになりました。

そして、「決議23-34」に関して、小沢RI理事のRI執行委員会内でのロビーイングが1年余に亘って始まりました。小沢RI理事は、「私は、17人の全員とロビーイングの時間もないし、いろんな関係のこともとことん話すには、執行委員会を一人一人に手回しをして、またポールさんという執行委員会の委員長にとくとお願いをして、執行委員会の提案として、RI理事会に提案したいのです。」といわれました。

An historic document の削除については、はまずは小沢RI理事が suggest するといえますけれども、ついで、執行委員会からの提案として出して、“an historic document”というのを消してもらった分けであります。

この間の経緯は、小沢RI理事による「『決議23-34』最新報告 これまで通り『手続要覧』に記載されます」と題する報告をご覧下さい(ロータリーの友2009年6月号19頁)。

2-4) 決議23-34のこれから、特に、規定審議会での対応：

規定審議会は、3年に一度開かれるRI唯一の立法機関であります。今年4月にシカゴで開催されます。立法案には決議案と制定案がありまして、制定案は可決されますと直ちに法律になり、7月1日から執行されます。決議案は、採択された決議案を執行するかどうかは、RI理事会の裁量に委ねられます。規定審議会を通ってもRI理事会は認めないということがよくあります。RI理事会での討議の仕方については4つあります。

- ①.どのような経緯で討議をされたか。審議内容と投票数は？

- ②.それが1つの continent であるかどうか。国際性は？
- ③.ロータリー世界での言語の問題ではどうか。
- ④.その決議の実行にあたって RI にどのくらい費用がかかるか。

この4つの事項を踏まえまして決議案は RI 理事会の採決になるということがあります。

2010 年規定審議会では、日本から制定案は 11 点と決議案 15 件の提案がなされております。日本から決議 23-34 に関する案件は、6 案件ございます。そのうち貴地区からは、京都東 RC の提案の制定案 10-14:クラブ自治権は RI 管理の基本理念であると規定する件、敦賀 RC の提案の決議案 10-181:ロータリーの「奉仕の理想」を定義することを検討するよう RI 理事会に要請する件でございます。

これからの「決議 23-34」について私達は注目をしなきゃいけないと、評論家のような話をしましたけれども、しかし、実際、鍵を握っていらっしゃるのは現職の RI 理事であり、規定審議会代表議員の皆さま方であり、そして日本のロータリアンの皆さま方の力が加わってくると思います。

先ほど申し上げましたように「奉仕の理想」"Ideal of Service" とは、相手のことに思いを馳せ、相手に手を差し伸べてお助けすることなのです。このことは大変大切なことで、私達はただ奉仕の理想とうたうのではなくて、これにどのような意味があるかを考えなければならぬのです。

「奉仕の理想」「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」という私達の実践するものであるという感覚が大切な提案ではないかと考えます。

3. ロータリーの樹・2008 と職業奉仕：

次に、「職業奉仕の重要性について」お話をさせていただきます。私たちのロータリーの考えを樹に喩えることは、前原勝樹パスト・ガバナーをはじめ多くの先輩たちが行っておりますが、私なりに考えてみました。

皆さま方は、今、胸にロータリーのバッジをつけていらっしゃいます。私のガバナー時代の 1993-94 年度 RI 会長ボブ・バースさんは次のように言われました。「ロータリーのバッジをつけているあなたは、次のように発信をしているのです。『あなたは、私を信頼することができます。私は、頼りになります。そして、私は、信用に値します。私は、受けるよりも多くを与えます。私は、いつでもお手伝いをします。』』ということでございます。

私たちのロータリーの先輩が血のにじむような努力をして、その結果得られた賞賛に値する私達の信用です。信用というのは、信用を積み上げるのは時間がかかりますけれども、失うのは一瞬であります。私達はそのことを考えていかなければならないわけです。

ロータリーは、1905年に4人の仲間の親睦と助け合いで始まりました。1906年に弁護士ドナルド・カーターさんは、お互いの中だけで助け合うことは、良いことだけれども、決して長続きするものではない。長く続けるためには、奉仕をしなければならないといわれたのです。彼は社会奉仕の父と言われました。そして、ロータリーが新しい一歩を踏み出したと言う歴史がございます。

ロータリー・クラブの会員は、「ロータリーの綱領」を基本として、「四つのテスト」を行動の規範として、奉仕活動の実際を体得することからロータリアン進化します。進化の過程の基盤には、公式標語の「超我の奉仕」、「最も奉仕する者、最も多く報いられる」が存在します。

一本の樹は、「クラブ奉仕」という「根」から吸収された「水」と「栄養」は、「奉仕の理想」という「導管」を通して上に上がります。その「幹」を通す導管というのが「奉仕の理想」でございます。そして、「枝や葉」は、「社会奉仕」、「国際奉仕」になり、「ロータリー財団」という「花」を咲かせます。そして、やがて多くの素晴らしい「実」を結びます。

(図1)



では、「実」とは、ポリオ撲滅、平和フェロー、R 財団奨学生、グループ研究交換 (GSE)、世界社会奉仕 (WCS) です。「木によしあしは、その実においてわかる」という言葉がございます。ロータリーの樹の結ぶ実は素晴らしいものではないかと思えます。

ポール・ハリスの言葉を1つご紹介申し上げます。「社会に役立つ人間になる方法は色々ありますが、しばしば最も効果的な方法は、間違いなく自分の職業の中にあり

ます。」 手続要覧には、「職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かして行くことをロータリーが育成、支援する方法である」 書いてあります。

ポール・ハリスの言葉でございますけれども、「事業の倫理的水準が理想に近づいている場所で、ロータリーが最も栄えるということは喜ばしいことではないでしょうか。」 味わい深い言葉であります。

3-1) RI 職業奉仕委員会：

RI 職業奉仕委員会の報告をロータリーの友 2009 年の 1 月号に 2007 - 08 年度職業奉仕委員会委員の廣畑富雄パスト・ガバナーが「RI 職業奉仕委員会の審議と勧告」と題して書かれております。 一読いただければと思います。

4. 四つのテストと職業奉仕：

戸別訪問方式で食品を売り捌く、とある有名な食品会社に勤める若いセールスマンの物語をご紹介します。

彼はあるバンガローに行って、戸を叩きました。

セールスマン「ウィルソン夫人はご在宅ですか。」

女性「すいませんが、ウィルソン夫人は、今お休みです。」

セールスマン「それは、どこが悪いのですか」

女性 「いいえ、悪いのではありません。赤ちゃんが産まれてまだ起きられません。」

セールスマン「それはおめでとうございます。私の妻も女の子を産んだのですよ。もしよろしかったらウィルソン夫人の赤ちゃんを見せていただけませんか」「赤ちゃんのお名前は？」

セールスマン「たぶんご参考にならないかもしれませんが、私たちは、子どもに『ラモナ』という名前をつけたのですよ。」

ウィルソン夫人「ところで、ご用件は何でいらっしゃるのですか。」

セールスマン「コーヒーとお茶を買っていただこうとお伺いしたのです。」

このセールスマンこそ。若き日のハーバート・テイラーその人でございました。

ハーバート・テイラーは、1932 年に「四つのテスト」を実践して、倒産寸前の会社を優良会社に立て直しました。「四つのテスト」は、責任と誇りを堅持するためのチェックポン

トとなっております。

四つのテスト THE FOUR-WAY TEST

言行はこれに照らしてから Of the things we think, say or do.

- 1) 真実かどうか Is it the TRUTH?
- 2) みんなに公平か Is it FAIR to all concerned?
- 3) 好意と友情を深めるか Will it build GOODWILL and better friendships?
- 4) みんなのためになるかどうか Will it be BENEFICIAL to all concerned?

4-1) 四つのテストの邦訳物語

「四つのテスト」の邦訳は、日本ロータリーの先輩によって公募の形で行われ、本田親男さんの邦訳が採用されたと伺っております。疑問があれば、英語が **official** となるのはロータリーの一般的な理解ですが、最近、ロータリーの規約文書を含めて、それらの邦訳に、廣畑富雄 PDG をはじめ、各地のロータリアン各位からいろいろなご意見が出てくるようになりました。

「四つのテスト」とは、行動を起こす前にご自分で考えること、これがポイントなのです。私たちは、四つのことを考えて、それに合っているかということを考えながら、相手に思いをいたして、そして発言して行動するということとなります。英文には **think** という言葉が入ってまいります。このことが大変大切になってまいります。

ロータリーには、9つの公用語があります。では、その公用語の中で“**think**”が訳されていないのは、日本語とフランス語だけのようでございます。

橋本長平パスト・ガバナーにお願いしておりますが、現在、ガバナー会の有志によりまして、翻訳の問題に取り組んでいただいております。何か疑問があります時には、英文が本文、**official** と言われていますけれども、私達は日本語でみななければいけませんので、そういう点で大変大切なことではないかと考えます。

4-2) 私の提唱する四つのテストの邦訳(案)(廣畑富雄 PDG 訳を参考にして)

考え、言い、行う際には、これに照らしてから・・・。

- 1) それは真実かどうか
- 2) それは関係者すべてに公正か
- 3) それは好意と友情を深めるか

4) それは関係者のすべてのためになるかどうか

4-3) 天国と地獄

天国と地獄の長いスプーンのお話です。ある人が地獄をのぞきました。人々は、テーブルのご馳走が並んでいるのに、食べることが出来なかった。よく見ると、彼らが持っているのは、柄がとても長いスプーンだった。腕よりも長く、それは手にくくりつけられていたのです。人々は、食べ物を口に入れることが出来ず、飢えで気が狂いそうになっていました。

次に、天国をのぞきました。同じように、柄の長いスプーンは、手にくくりつけられていました。しかし、人々は、十分に食べ、微笑み、楽しく過ごしていました。よく見ますと、彼らは、その長いスプーンを使って、それぞれ向かいにいる人に食べさせていたのです。共存共栄が奉仕の理想ではないかと考えます。

4-4) ジョブ・カードの物語：

ジョブ・カードの物語を簡単に申し上げます。

これは小沢元 RI 理事が商工会議所の現職の会頭の時に、あるハローワークの前を通りました。そうするとみんな自動車で乗り付けてワイワイ騒ぎながらお金を貰って帰って、あまり仕事をしようとしないう景に出会いました。これはだめだなと彼は考えて、在籍されている横須賀ロータリー・クラブ全員の支援を得て、職に付けないフリーター、子育てで一旦離職した女性、母子家庭の母親などに職業訓練を行い、その人たちの就職を支援・促進することを目的とする「キャリアサポート事業」の普及に尽力され成功しました。

日本では、現在、就職をすることが難しく、特に、地方での就職は困難です。ある元保育士の女性は、再就職の希望を持ちましたが、キャリアとスキルがなければ、自分の希望する職業に就けないことを知らされ、キャリアサポート事業によって、キャリア訓練を受け、認定書を受領して、新しい職を得て、充実した日々を送っています。

4-5) 内なる職業奉仕と他者への職業奉仕：

第 2660 地区の大阪そねざきロータリー・クラブの岩本洋子弁護士は、2004-05 年度の第 2660 地区の職業奉仕委員長として、職業奉仕の実行面において、内なる職業奉仕としては、ロータリアン自らの職業倫理を高めることを強調されました。一方、他者への職業奉仕として、自己の職業経験を地域社会に還元することを提唱されました。非常に感銘を

受けました。

第 2660 地区では、地区職業奉仕委員会のプロジェクトとして、出前授業への取り組みを行っています。2008－09 年度の地区職業奉仕委員長は畑田耕一阪大名誉教授です。畑田名誉教授は、ロータリアンの職業と人材が小学生の想像力とコラボすると思わぬ発見があるし、豊かな想像力から道徳は生まれるとのこと。ロータリーの影響力を学校現場で示すことは、正に、出前授業は職業奉仕の教条ともいえるとされています。

第 2580 地区の地区大会では、ロータリー・クラブでどのような職業奉仕活動をしているか、職業奉仕ではどのような課題があるか、の議題もと職業奉仕セッションが行われました。

その時に第 2580 地区職業人育成委員会が「職業人 5 か条」を発表されました。

1.卑劣なことをしない、2.嘘をつかない、3.弱い者をいじめない、4.他に迷惑をかけない、5.困って入るときは助け合う。

東京浅草ロータリー・クラブの職業奉仕委員会は、職業奉仕 12 章を発表されました。

- 1) 自分の職業に誇りを持つことから職業奉仕は始まる
- 2) 天与の職業を愛情を持って育てることは職業奉仕だ
- 3) どんな仕事でも有用でそれを継続することは職業奉仕だ
- 4) 事業の経営に最善の努力をすることこそ職業奉仕だ
- 5) 社員教育に熱意を注ぐのは立派な職業奉仕だ
- 6) 社員の福祉を図り幸福を願う事は職業奉仕だ
- 7) 業界の発展のために力を尽くすのは職業奉仕だ
- 8) 職業倫理を高めることは職業奉仕だ
- 9) 常に相手の身になって共存共栄を図ることは職業奉仕だ
- 10) 自分の職業の水準と品位を高める努力は職業奉仕だ
- 11) 例会で多くの人と職業上の理解を深めることは 職業奉仕だ
- 12) 『四つのテスト』それは職業奉仕そのものだ

テントの張り方ですが、綱を長くして、杭を強固にします。私たちが奉仕活動をする時には、まずクラブが熱心になければ、奉仕活動はできないと言われます。

「あなたの天幕の場所を広げ、あなたの住まいの幕を惜しみなく張り伸ばし、綱を長くし、鉄のくいを強固にせよ。」(イザヤ書 54.2)

マザー・テレサの言葉を紹介いたしましょう。ノートルダム清心女子大学の渡辺和子理事長のお父さまは渡辺錠太郎(陸軍教育総監)さんで、彼は2.26事件のときお嬢さんの前で反乱軍の銃弾に倒れました。そういうことを踏まえて、彼女はカトリックの修道女になりました。そして、マザー・テレサと面談しました。マザーに、渡辺和子さんは、「私の大学の学生が、マザーの奉仕をされているカルカッタでお手伝いをしたいと申ししておりますが、いかがでしょうか」といいますと、マザーは、「そうですね。有り難いことです。しかし、どうぞ、あなたの街のカルカッタを見つけて、ご奉仕をお願いいたします。」と答えられたのです。

どうぞ皆さま方の地域社会において、その場所に根ざしたご奉仕ができると有り難いと思います。

「私が行うことはあなたには出来ません。あなたが行うことを私は出来ません。ニーズはあまりにも大きいので、私を含む私達も、常に偉大な行いをする事は出来ません。しかし、私たちはすべて、小さいことを大きな愛を込めてなすことが出来ます。それらが一緒になれば、素晴らしい何かを行うことが出来るのです」とマザー・テレサは話しております。

5. より良きロータリアンになり、より良きロータリアンであり続けるために：

より良きロータリー、より良きロータリアンとなり、より良きロータリアンであり続けるためには、次の4つのことがあります。

- 1.積極的な良い夢をもつ、2.積極的な前向きの良い言葉を使う。3.積極的な前向きの良い友人を持つ。4.それらを続ける。

5-1) 積極的な良い夢を持つ：

「幻なき民は滅びる」と申しますように、夢を持つことは、とても大切なことです。

あるところで、大きな建物を建てているある人に聞きました。「何をされているんですか。」ある人は、「見ればわかるだろう」といい、ある人は、「時給がね 500 円で安いんだよな」といいます。ニコニコとして働いている人に聞きました。「私はこの建物がやがて京都産業会館となって 2650 地区のある会合が開かれ、素晴らしい会合の成果があがるとい

うことを期待しているのです」と申したかどうかわかりませんが、「素晴らしい建物を建てるために働いているんです」といいます。その人は、夢を描いているわけです。その姿を見ます時に、夢を持つことは大切なことです。

5-2) 積極的な前向きなよい言葉を使う：

言葉は「ことのは」と申しまして、言葉のオシャレは、心のオシャレであります。否定語をさけて、肯定語を使うのです。

昭和を代表する歌手の藤山一郎さんというロータリアンがいました。彼は「いや、嫌い、だめ、明日にしよう」という否定語は避けられ、家族にも、使わないようにと話されていたのです。また、ジャック・ニコラウスは、スランプに陥っても立ち直りは早いといえます。どうしてかといえますと、例えば右の肩を上げたとしましよう。普通の人には「ジャック、右の肩上げるからだめなのよ。だから賞金が少ないのよ」というでしょうが、彼の奥様は違っていました。「愛するジャック」と言ったかどうかは別として、「あなた、ジャック、左の肩をもうちょっと上げなさい。そうすると素晴らしいよ」と褒めたのです。肩を上げなさいという発想の転換が素晴らしいことです。積極的に、前向きに考えることが大切ではないかと考えます。

「若くかたち良き人の、言（こと）うるわしきは、忘れがたく、思ひつかるるものなり」とは、兼好法師の徒然草の一節です。若いとは、決して年齢ではないのです。青春しているとは、前向き、肯定的に生きていることではないでしょうか。

サムエル・ウルマンは、「青春とは、人生のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。」と書いております。言葉が素敵で、姿かたちの美しい人に触れますと、その方を忘れることが出来ないで、また訪ねるのです。即ち、リピーターとなります。

「正しい形は、正しい心の母」であります。

5-3) 積極的な前向きなよい友人を持つ：

「友」の原義は、「愛する者」であります。まさかの時の友こそ真の友と申します。

これはロータリー・クラブの友人というのは、その積極的な、前向きな友人ではないかと思えます。One Rotary Centerの一室にエマーソンの詩の額が飾られています。「千人の友がいても、ただ一人、どの友もないがしろに出来ない。」「友人を得る唯一の方法は、友人になることである。」

5-4) それらを続ける：

ある方は、「右の耳から入っても左の耳に抜けてしまい、頭には何も残らないのです」と言われます。では、ロータリーの情報をためるためには、どうしたらよいでしょうか。策に水を注ぎますと、水は漏れてしまいます。しかし、策を水につけますと漏れないのです。富田ガバナーそうですね。はい、頷かれました。では、策を水に浸けるとは、どういふことをごいまいしょうか。それは、ロータリーの例会に毎週出席をされることです。

結びに：ロータリーは希望・神童の物語

私は、ロータリーを一つの言葉で表すならば、それは「希望」であると考えます。パレスティナの人に「どうして新婚の若者が爆弾を身にまとして、自爆するのでしょうか」と聞きました。「いや、私達はこの争いに希望が持てないからです」と答えたのです。

希望というのはロータリーにとっても、非常に大切だと考えます。

Honor Rotary ロータリーを高めましょう、

Organize Rotary ロータリーをよく組織し、運営しましょう。

Participate in Rotary ロータリーに参加し、敢行しましょう。

Enjoy Rotary ロータリーを楽しみましょう。

1つの物語をご紹介しながら私のお話を終わりたいと思います。ある山里に一人の神童がおりました。その少年は、山奥に住む全知全能の仙人と問答をして勝ちたいと思いました。村の長のところに行って、神童は右手に一羽の小鳥を持ちました。「仙人様、仙人様、この私の右手の小鳥は、生きていますでしょうか。死んでいるでしょうか」と聞きたいと思いました。そして、「死んでいると言えれば右手をパッと離せば飛んで行きます。生きていますと言えればシュと首を絞めれば死んでしまいます。」村の長は、なるほどあなたは神の童である。仙人もそれには参るだろうと言ったのです。そして、神童は、弓なりになりながら、山奥へ入って行きました。とある岩陰に立ちましたところ、仙人様は、岩の上に立っていました。神童は、「仙人様、仙人様、私はあなたと問答がしたいのです。私の右の手に小鳥がいます。この小鳥は生きていますでしょうか、死んでいるでしょうか。」仙人は慈しみ深い眼差しで、最初その少年を見ましたけれども、やがてキツつとなつてこう言いました。「その答えはあなたの右の手が握っています」

そうですね。ロータリーの未来は、2650 地区の未来は、あなたのクラブの未来は、あなたご自身の未来は、すべてあなたの手が握っているのです。“The Future of Rotary is in

Your Hands” ご清聴ありがとうございました。

質疑応答：

——渡辺好政 RI 元理事ご講演大変ありがとうございました。少し時間に余裕がございました。前もって皆さま方からペーパーで質問事項を承っております。渡辺好政RI 元理事、そのことについてお話をいただきたいと思います。RI 理事よろしく申し上げます。

渡辺 はい、これは武生ロータリー・クラブの方、いらっしゃいますか？

職業についてはロータリー・クラブとしては干渉できるものではないので、あえて職業奉仕を取り上げられるのか、またロータリーの理念を職業に生かすというのはどういうことか、いま縷々少し言葉不足でございましたけれども、職業の考え方というのはいろいろありますが、vocation、vocational というのは声を掛けられたという意味もございますので、天職とは申しませんけれども、職業に対して、ご自分の職業を職業奉仕 12 か条というのを皆さま方の前でご説明申し上げましたけれども、その 12 か条の最初にご自分の職業に対して誇りを持つこと、このことから職業奉仕が始まる。だから、ご自分の職業に対しての奉仕というのは、まずは、誇りを持つことから、どんな職業でももちろんですが、機会を得てその職業に就くというのは人生そのものとの出会いであると考えて、努力して、研鑽をする。これが職業奉仕ではないかと考えるわけでございます。お答えになったかどうか不安ですが。

2 番目、職業奉仕という概念からすると、もともとロータリーでは企業が社会的責任を果たすためのクラブであったような印象を持ちます。その意味で、社会奉仕、クラブ奉仕、国際奉仕は、そのあとのロータリーの運営にRI が大きな影響力を持つと、経済力を持ち始めるようになり、組織の拡大と成長のためにとられた方針ではないかと考えております。ある程度の大きさになると、元々の存在意義を離れ、存続するために新たな目的を生み出して、自己増殖していくという典型的なパターンだと考えますが、少し私の理解を超えていることもございますが、元々「決議 23-34」の中に書かれております職業奉仕に考

えるというのは、四大奉仕というのが確立しましたのが 1929 年前後でございます。「決議 23-34」ができたのは、1923 年でございます。その時に先ほど社会奉仕の父のお話をしましたけれども、その時の「決議 23-34」のこともロータリー全体のこれからの発展、いろんなことを考えるという演題がついております。決して社会奉仕のことではなく、ロータリー全体の奉仕活動に対する理解と考えていただくならば、十分にそのことが私たちは理解できるのではないかと思いますし、職業奉仕全体に対する私どもの理解というのは最初に考えました。やはり、なんと申しましても、樹の幹、根幹でございますので、それを通さなければすべての職業奉仕はできない。職業奉仕そのものは、私たちのロータリーは、本当に「ロータリー-職業奉仕=0」と考えた人もいますけれども、実際そういうことになってくるのです。だからすべての面において職業奉仕そのものは大変大切なことではないかと、あと四大奉仕に対する理解というのはそれぞれの意味におきましてもう一度もちろん考えなおさなければならない点もございますし、またロータリーの交流の関係も加わってまいりますから、それをみて、また検討する余地があることは考えております。

—ありがとうございます。

渡辺 もう1つ京都朱雀ロータリー・クラブの青竹さん、いらっしゃいますか？

当クラブでは CLP を廃止し、元の四大委員長を理事にするような方向ですと。なぜ、RI が職業奉仕をはじめ四大奉仕を軽視するのか、このような DLP を共用し、CLP を干渉されるのか、ということで厳しいご質問と受け取っておりますが、RI の場合には、いわゆる DLP、CLP のことは強制をしているという感覚は re-command とか、あるいは suggests とかあるいは in college という言葉を使っている場合がございます。ということで、あとシニア・リーダーの人達、特に諮問委員会の人たちのご承認を得て、そういうふうなことがございますので、必ずしもクラブの自治権を犯しているという感覚は持ってないと私は理解しています。そのクラブにおいて、クラブ細則の問題、先ほど申し上げましたように、RI 定款細則、クラブ標準定款に差し支えない限りにおいて、クラブにおいては細則なるものに変えてもかまいませんので、そのような意味を理解していただければありがたいと思っております。また、職業奉仕のことについての四大奉仕のことで元に返されるというか、どのように地区として、クラブとして推進していくかは、それぞれに意味があると思いますから、今後考えていかなければならないのです。

1つだけ、エピソード申しますと、例えば、シカゴ RC があるその地区、私はシカゴ RC

にも訪問したことがございます。ドアに「No.1」と書いてあります。最初にできたクラブで一時は650人位、700人位のRCでした。今は200人を切っております。4分の1が女性です。そういうRCになっております。あと150人位のRCがもう1つあります。あとは、20人から10人というRCがほとんどです。そうしますと、それぞれの委員長とか、いろんな活動に差し支えるというのはありえるということです。そこから例えばCLPの問題も、DLPの問題もいろんなかたちでもって、効果的なRCにするにはどうしたらいいかという問題が周りから出てくる可能性があるという考えは持ちました。ここで、注意していただきたいのは、大きくても弱いクラブというのはあります。小さくても強いクラブというのは、人数が少ないということでは弱くはないです。皆さんが、いかに奉仕活動を喜んでいらっしゃるかというのが大切ではないかと考えています。よく文章に弱小とは書かないように皆さま方、関係者に勧めております。それはだからガバナーが訪問する時には弱いクラブにもう一度元気出していきましょう、これからロータリー・コーディネーターの役になりますが、そういうのが大切ではないかと考えます。言葉というのはいろんなことを連想します。一人歩きをするということをお考えいただければ、有り難いと思います。以上でよろしいでしょうか。

——どうもありがとうございます。またせっかくの機会ですので、会場のほうからも2、3ご質問をお受けいただきたいのですが、よろしいでしょうか。それでは、挙手願ひまして、クラブ名とお名前を申し上げていただき、質問していただけますでしょうか。よろしく願ひいたします。どうぞ。いかがですか、せっかくの機会ですのでお訊ねしたいことがありましたら。

渡辺 先ほどは、「決議23-34」のこれからのことにつきましては歯切れが悪い話をさせていただきましたが、これが限度ということでちょっと勘弁してくださいませ。いろいろと事情がございますので、もう2か月ほどしたらいわゆる2010年1月のRI理事会報告が出てきますから、その時にはまたいろいろとお話ができると思います。ただそういう傾向にあるということだけは、ご存知いただければと思います。職業奉仕委員会に対して、小沢元RI理事も職業奉仕委員会に入っていまして、新しい職業奉仕委員会の答申の中についても職業分類を確立しましょうということと、職業奉仕に対する理解をしましょう、予算に関することについても大変苦しい問題もございますので、整理していこうという考えはあるのではないかと理解をしております。もし、なければ、有り難いと思います。有り

難うございます。

——じゃあよろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは最後に渡辺好政 RI 元理事大きな拍手をお願いいたします。

参考文献出典：

1. Paul P. Harris: IX Growing pains, THIS ROTARIAN AGE.P107-122、1936
米山梅吉訳：『第9章 伸び行く悩み』ロータリーの理想と友愛、P125-144,1936
2. Harold T. Thomas: Rotary Comes of Age. P40-59, 1974
松本兼二郎訳：ロータリーは成年に達した。「決議 23-34」はロータリーの哲学、方針、および、プログラムの性格を決定した。p74-106 他
3. 菅野多利雄：「決議 23-34」の見直し、40：No. 1. P32 ロータリーの友 1992
4. 玉村文夫：1992年規定審議会の通訳を務めてー「決議 23-34」は消えず

40 : No. 4, P14-15,ロータリーの友、1992

5. Herbert A. Pigman: III The Seed is Planted, P18-26, XI The Legacy of PolioPlus, P94-98, Conquering Polio 2004

RI 訳 : 第 3 章、種は蒔かれた、p18-26、第 11 章ポリオプラスの遺産。P93-98 (ポリオに打ち克つ) 2004